

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

当社グループの第80期中間期（平成20年4月1日から平成20年9月30日まで）の営業の概況についてご報告申し上げます。

当中間期における当社グループを取り巻く市場環境につきましては、米国発のサブプライムローン問題に端を発した世界的な景気減速の影響を受け、個人消費の低迷が顕著になるなど、大変厳しい状況となりました。

当社グループの売上高につきましては、液晶関連製品の売上減少が大きく、前年同期に比べ20.9%減の463億80百万円となりました。損益面につきましては、売上高減少が影響し営業利益は65百万円、経常損失は6億32百万円、中間純損失は7億77百万円となりました。

当社グループの取り組みにつきましては、本年1月に発表しました中期的な経営施策「FDKグループの成長に向けた新たな方針と施策」に沿って、電子機器のパワー領域と高周波領域に経営資源を集中し、当社の強みである素材技術に立脚した製品展開と事業の選択と集中を強力に推進してまいりました。山陽工場においては、積層チップパワーインダクタの生産能力を増強いたしました。また、台湾子会社の事業所閉鎖、スリランカの工場の一部売却、さらにステッパモータ事業の譲渡の決定などを推し進めてまいりました。

中間配当につきましては、誠に遺憾に存じますが、見送らせていただきたいと思います。

株主の皆様には誠に申し訳なく、衷心よりお詫び申し上げます。

今後につきましては、金融危機による世界的な景気の減速を受けて、薄型テレビや携帯電話、自動車などの需要がさらに減少するとともに、各市場での企業間競争の激化が予想されます。また為替動向も円高傾向にあり事業環境はこれまで以上に厳しい状況になるものと考えております。

このような市場環境の下で、当社グループといたしましては、事業の選択と集中をさらに推し進め、当社が強みを持つ技術と製品に経営資源を集中してまいります。また同時に徹底的なコスト削減を実行し、不況下においても耐え得る強い事業体質へ転換してまいり所存です。

株主の皆様におかれましては、なにとぞ倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年12月



代表取締役社長 杉本俊春